



# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年8月20日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

## サムソン電子の元常務が感じた「絆」

20日(日)＝1、3面

韓国の半導体大手、サムソン電子の常務だった国会議員の梁香子（ヤン・ヒャンジャ）さん＝写真＝は「ガラスの天井」を何度も破ってきました。しかし、エリート出身ではありません。女子商業高校時代は、家族に内緒で実家近くの鉱山で働いて学費を賄いました。

大学進学を諦めて、サムソンに入社したのは1985年。順調にスタートを切ったわけではありません。半導体開発を行う研究所での「補助員」としての採用で、設計図の清書やお茶くみが主な仕事でした。それでも諦めず、社内大学に願書を出し続けるといった梁さんの言動を見た

上司の働き掛けもあって、ステップアップしました。政界に進出した後も支えてくれた人の中に日本人もいました。梁さんにとって「第二の両親」。半導体などを巡ってギクシャクした日韓関係の裏側にあった「娘」と「両親」の絆に迫ります。

迫る



## 富士山世界文化遺産10年

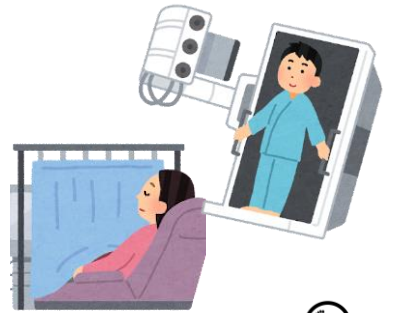
20日(日)＝総合面

富士山＝写真＝が世界文化遺産に登録されてから10年がたちました。

その高さや存在感から「日本一の山」と称されることも少なくない富士山。新型コロナナ

ウイルス感染症の5類移行もあり、この夏は国内外から大勢の登山客が押し寄せています。世界遺産登録がもたらしたにぎわいは、富士山の抱える課題を改めて浮き彫りにしました。

富士山の現状を紹介するとともに、今後について考えていきます。



そこが聞きたい

## 誰一人取り残さないがん対策とは

22日(火)＝オピニオン面

3月にまとまった第4期がん対策推進基本計画は、今後6年間の国のがん対策の指針になります。「誰一人取り残さない」を全体目標に掲げていますが、「誰一人取り残さ

ないがん対策」とは、どういふことなのでしょう。検診の専門家として計画策定の委員を務めた医師の松田一夫・福井県健康管理協会副理事長に課題を尋ねました。

## 特集 ワイド

## 足尾銅山 閉山50年

22日(火)＝夕刊2面

日本の公害問題の「原点」といわれる足尾銅毒事件があった足尾銅山（栃木県日光市）は今年、閉山から50年を迎えました。銅毒は山林を枯らし、周辺を流れる渡良瀬川を汚染し、流域の住民を長年苦しめました。今年は被害民の救済に奔走

した政治家、田中正造の没後110年にもあたります。記憶が薄れつつあるなか、かつて日本一の産出量を誇った坑道跡を見学するトロッコ列車＝写真＝に乗り、汚染で強制収容された村を歩きました。



## 竹橋の窓から

編集後記



阪神甲子園球場で開催されている第105回全国高校野球選手権記念大会を盛り上げるため、毎日新聞社、朝日新聞社は合同で「高校野球応援キャンペーン」を実施中です。センバツと選手権の春と夏の両優勝旗をデザインしたグッズなどを抽選でプレゼントします。



甲子園はまもなくライマックスですが、キャンペーンは31日まで。QRからご応募ください！（宮澤暁子）